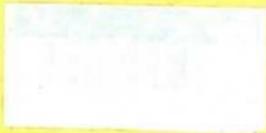


# 町内遺跡発掘調査報告書

持田古墳群古墳範囲確認調査3

持田遺跡確認調査



2005. 3

宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会

## 序

本書は、高鍋町教育委員会が平成16年度に実施した古墳時代の2カ所の埋蔵文化財の発掘調査報告書です。

高鍋町大字持田に所在する国指定史跡持田古墳群のうち円墳4基について古墳範囲確認調査を実施した発掘調査の成果を収録したものです。持田古墳群古墳範囲確認調査は、本年度で3年次の調査であり、多くの資料を得ることができました。

また、持田遺跡内における遺跡の確認調査も実施し、その成果を収録しております。

本書が、郷土の歴史を学ぶ教材として、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解、さらには学術研究上において役立つことが出来ますれば幸甚に存じます。

持田古墳群における古墳範囲確認調査および遺跡確認調査におきましては、地権者のみなさまや耕作者等関係者のみなさまには暖かいご理解と多大なるご協力を賜りました。心から感謝の意を表する次第であります。

平成17年3月

高鍋町教育委員会  
教育長 三重野 保

## 例　　言

1. 本書は、国指定史跡持田古墳群の第2号墳・第9号墳・第12号墳・第13号墳について古墳範囲確認調査及び持田遺跡確認調査の発掘調査報告書である。

2. 調査は、平成16年度に国庫補助金、県費補助金を導入し、高鍋町教育委員会が実施した。

### 3. 調査の組織

調査の主体　高鍋町教育委員会

教育長	三重野 保
社会教育課長	壱岐 昌敏
同 課長補佐	三嶋 俊宏
同 文化財係係長	山本 格（調査員）
同 文化財係主査	小澤 宏之

調査指導　官崎県教育庁文化課埋蔵文化財係

特別調査員　徳島文理大学 助教授　大久保 徹也（持田古墳群範囲確認調査）

4. 図面の作成は、山本が行なった。

5. 遺物・図面の整理は、高鍋町教育委員会において、山本が行い整理作業員がこれを補助した。

6. 本書に使用した写真は、山本が撮影した。空中写真については㈲スカイサーベイ九州に委託した。

7. 本書に使用した方位は磁北で、高さは、海拔絶対高である。

8. 本書の編集・執筆は、山本がおこなった。

# 総 目 次

## 持田古墳群古墳範囲確認調査 3

### 本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 立地と環境	1
第2章 調査の概要	3
第1節 調査の概要	3
第2節 第2号墳	4
第3節 第9号墳	4
第4節 第12号墳	4
第5節 第13号墳	4
第3章 まとめ	4
挿図目次	
第1図 調査地付近遺跡分布図（1／10,000）	2
第2図 調査地位図（1／5,000）	3
第3図 第2号墳調査トレンチ位置図および遺構図（1／200）	5
第4図 第9号墳調査トレンチ位置図および遺構図（1／200）	6
第5図 第12号墳調査トレンチ位置図および遺構図（1／200）	7
第6図 第13号墳調査トレンチ位置図（1／200）	8
図版目次	
図版1 第2号墳調査トレンチの状況・1号・3号トレンチ	9
図版2 第2号墳4号・5号トレンチ・第9号墳調査トレンチの状況	10
図版3 第9号墳1号・4号・5号トレンチ	11
図版4 第12号墳調査トレンチの状況・1号・2号トレンチ	12
図版5 第12号墳3号・6号トレンチ・第13号墳1号トレンチ	13
図版6 第13号墳2号・3号・4号トレンチ	14

## 持田遺跡確認調査

### 本文目次

第1章 はじめに	17
第1節 調査にいたる経緯	17
第2節 立地と環境	17
第2章 調査の概要	19
第1節 調査の概要	19
第3章 まとめ	19
挿図目次	
第1図 調査地位図及び付近遺跡図（1／5,000）	18
第2図 調査地内トレンチ位置図（1／400）	20
図版目次	
図版1 調査トレンチの状況・4号トレンチ	21
図版2 7号・8号・10号トレンチ	22
調査抄録	23

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査にいたる経緯

宮崎県児湯郡高鍋町大字持田には、昭和36年に国の史跡指定を受けた持田古墳群がある。この古墳群を保存し公開することを目的として、平成13年度に高鍋町教育委員会が、持田古墳群整備計画書を策定した。この計画書は、同古墳群の長期にわたる整備の基本計画である。

この計画をもとに、平成14年度から古墳群の整備に必要な基礎資料の収集を実施している。今年度は、その第3年次の調査で、円墳の第2号古墳、第9号古墳、第12号古墳、第13号古墳について、古墳範囲確認調査を実施することになった。

## 第2節 立地と環境

高鍋町は、東に日向灘に面し、市街地がひろがる海拔約10m未満の沖積平野を北・西・南から、海拔約50mから約70mの洪積台地が取り囲む地形をしている。この沖積平野を九州山地に発した小丸川が北西から南東に貫流し日向灘にそぐ。

持田古墳群の主群は、この沖積平野の北辺で小丸川の北岸にあたる標高約60mの洪積台地の縁辺に位置しており、台地面に発生した沢がつくる谷が北から東へ走り、舌状に張り出す台地面に位置する。ここには、前方後円墳9基と円墳60基が分布する。この台地面には、持田遺跡として周知され弥生時代末期の住居跡も確認されている。

持田台地の舌状の南端には、持田中尾遺跡が知られる。旧石器、縄文、弥生前期～後期、古墳時代にわたる遺跡で、弥生時代の堅穴式住居跡2軒、割竹形木棺をもつ円墳が調査された。

同台地の東の谷を隔てた対岸の台地面には、上ノ別府遺跡があり、古墳時代後期の堅穴式住居跡9軒が検出された。同台地の北の谷を隔てた対岸の台地面には、下り松遺跡があり、縄文から弥生時代の遺跡として周知されている。

さらに、同台地の東端の裾部の微高的平坦面は、東光寺遺跡があり、古墳時代の遺跡である。ここには、室町時代の永禄五年（1562）に建立の十三仏板碑（笠塔婆）がある。

江戸時代には、古墳群の西辺の台地面を高鍋藩主は参勤交代の道としていた。

昭和40年代になり、古墳群周囲の畠地に、ほ場整備事業が実施され今日の景観となった。

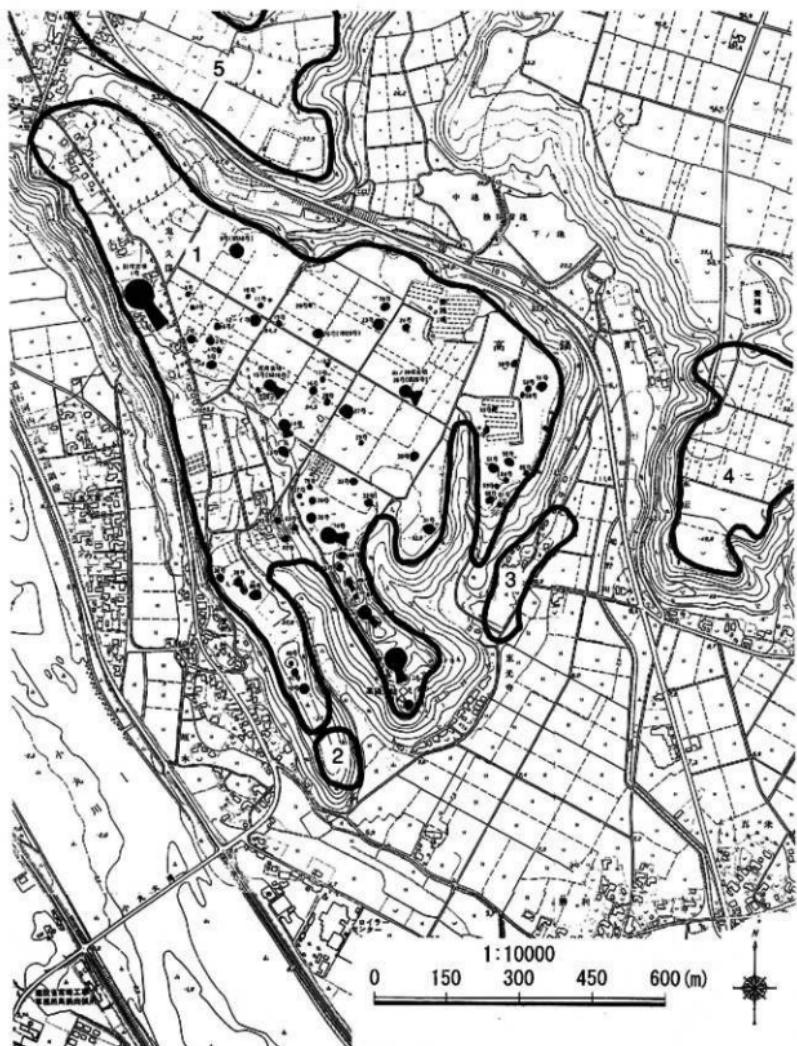
### 【参考文献】

「お染ケ岡特殊農地保全事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 1979 宮崎県教育委員会

「持田中尾遺跡」 1982 高鍋町教育委員会

「高鍋町史」 1987 高鍋町

「高鍋町遺跡詳細分布調査報告書」 1989 高鍋町教育委員会



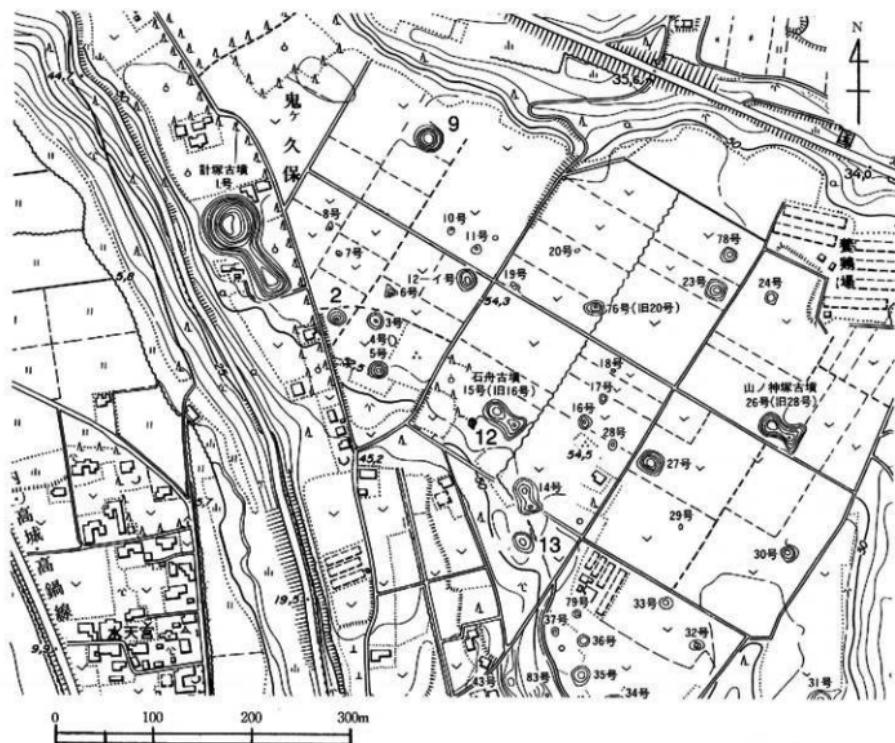
- 1 持田古墳群・持田遺跡      2 持田中尾遺跡（土取消滅）  
 3 東光寺遺跡      4 上ノ別府遺跡      5 下り松遺跡

第1図 調査地付近遺跡分布図 (1/10,000)

## 第2章 調査の概要

### 第1節 調査の概要

古墳範囲確認調査は、円墳4基で、第2号古墳、第9号古墳、第12号古墳、第13号古墳について墳丘の周囲を調査対象としたが、道路、作物等によりトレンチを設定できない箇所もあった。調査の期間は、平成16年12月8日に開始し、平成17年3月24日に終了した。確認調査のトレンチ面積は、約124.2m<sup>2</sup>である。



第2図 調査地位置図 (1/5,000)

## 第2節 第2号古墳

第2号墳は、現況で直径約15m、墳丘の高さ約3.7mの円墳である。古墳の北側を除く範囲に調査トレンチを5本設定した。すべてのトレンチにおいて古墳周溝を確認した。2号トレンチでは、周溝の墳丘側のみ遺存し、外側の部分は、西側の道路により削平されている。この反対側の5号トレンチでは、現在の地表面の削平が深くに及び周溝底部のみの遺存を確認できた。1号・3号・4号トレンチでの検出面での周溝幅は約4～5mで、これらから周溝外側での古墳範囲は約26～7mと推測される。周溝内からは、須恵器・土師器が出土した。

## 第3節 第9号古墳

第9号墳は、現況で直径約30m、墳丘の高さ約5.7mの円墳である。持田古墳群のなかで最大の円墳である。古墳の南西側半分を除く範囲に調査トレンチを5本設定した。すべてのトレンチにおいて古墳周溝を確認した。古墳周囲の畑地では、ほ場整備等の影響で土層が削平されているが、概ね良好に周溝が遺存していることを確認した。墳丘の外側を縦断する形で設定した1号・5号トレンチでの検出面における周溝外側での古墳範囲は約40mで、古墳築造当時はさらに古墳の規模は大きいといえる。周溝内からは、須恵器・土師器が出土した。

## 第4節 第12号古墳

第12号墳は、現況で直径約8m、墳丘の高さ約1mの円墳である。古墳の周囲に調査トレンチを6本設定した。5本のトレンチにおいて古墳周溝を確認した。古墳南東側の畑地では、ほ場整備等の影響で土層が削平されており、古墳南西側には緩やかな斜面であるが、概ね良好に周溝が遺存していることを確認した。墳丘の外側を縦断する形で設定した2号・6号トレンチでの検出面における周溝外側での古墳範囲は約20mで、古墳築造当時はさらに古墳の規模は大きいといえる。周溝内からは、須恵器・土師器が出土した。

## 第5節 第13号古墳

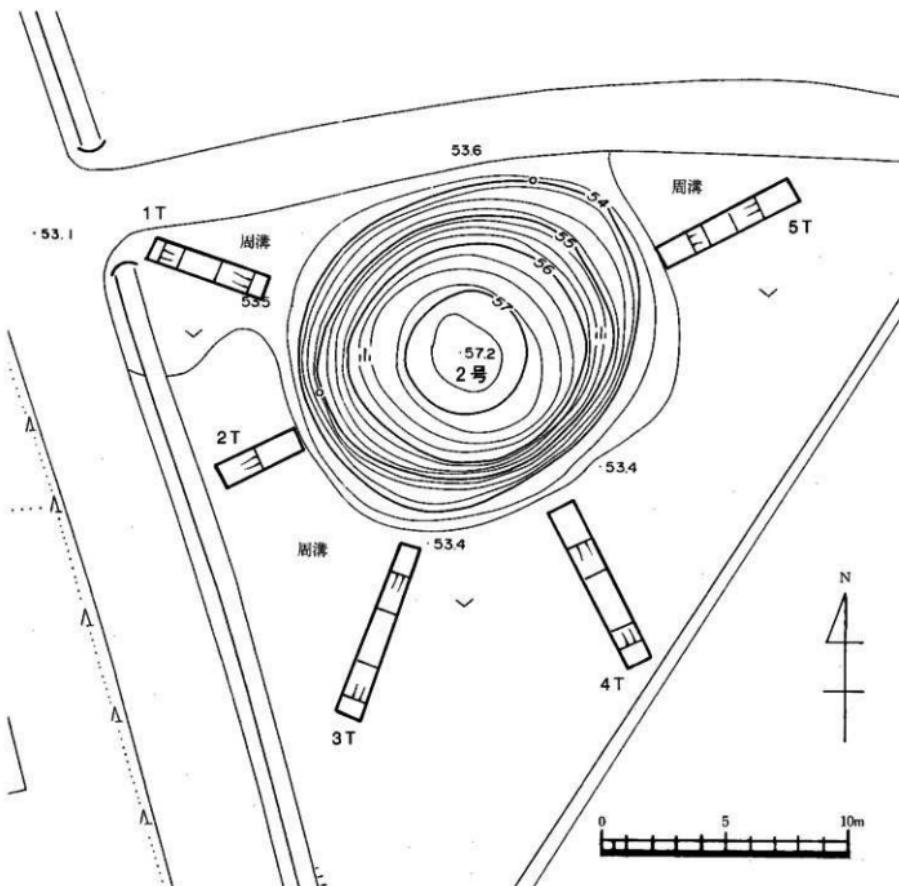
第13号墳は、台地面の縁辺に位置しており現況で直径約20mで楕円形を示し、墳丘の高さ約2.5mの円墳である。この古墳は西側を除く現状墳丘の裾野形状が良好であり、古墳の西側を除く範囲で調査トレンチを4本設定した。すべてのトレンチにおいて古墳周溝は確認できなかった。2号トレンチでは礫を多く確認したが古墳の葺石か否かの判断には至らない。

# 第3章 まとめ

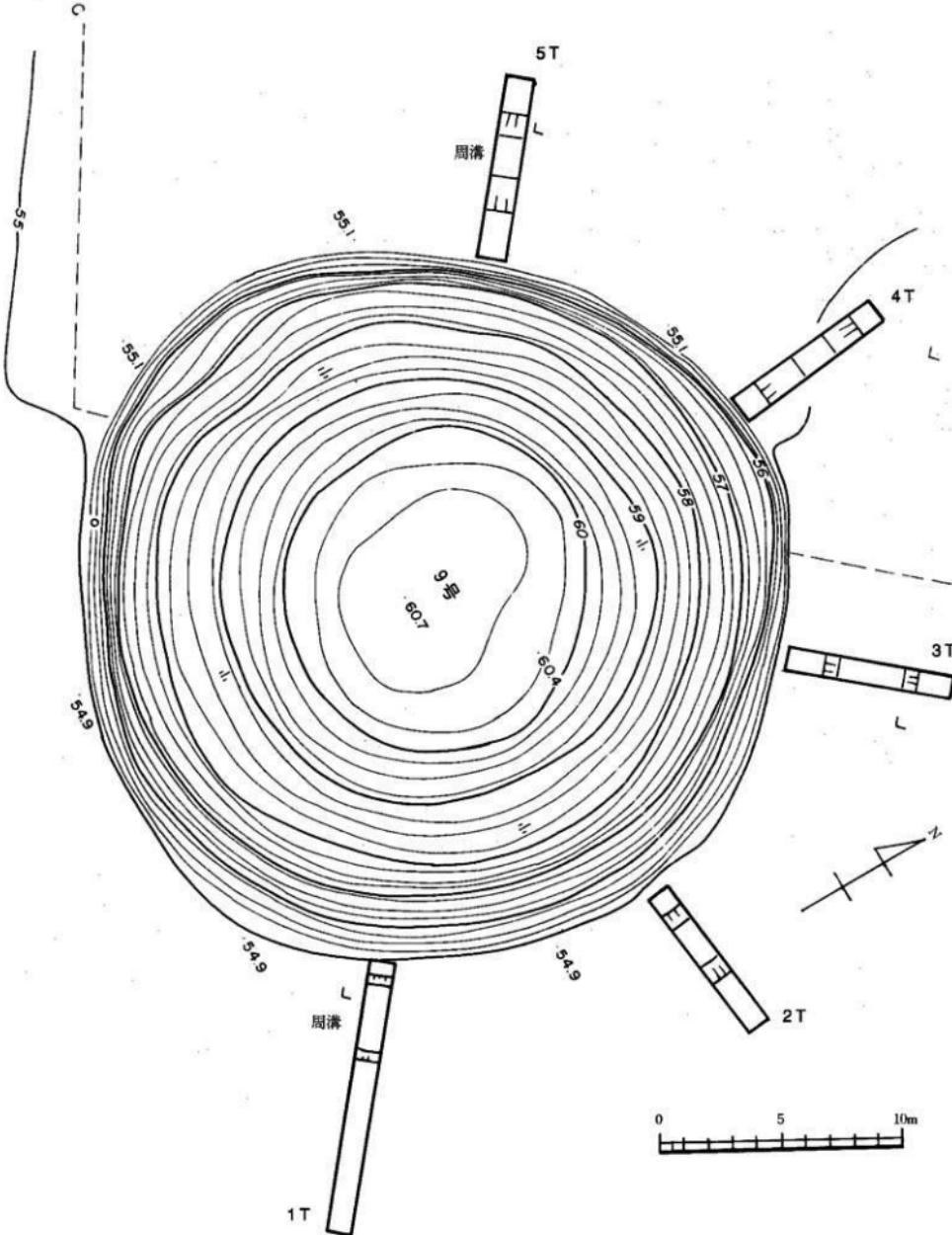
今回の調査では、第2号墳・第9号墳・第12号墳の3基について古墳周溝の遺存を確認できた。これらの古墳周溝からは、葺石とみられるものの出土がみられなかつたので、この3基については、葺石はなく周溝をもつ円墳であるといえる。第2号墳と第9号墳については、古墳の全周囲に調査トレンチを設定できなかつたため、墳丘の四方について周溝の状況を確認するに至らなかつ

た。機会を捉え補足の調査を実施したい。

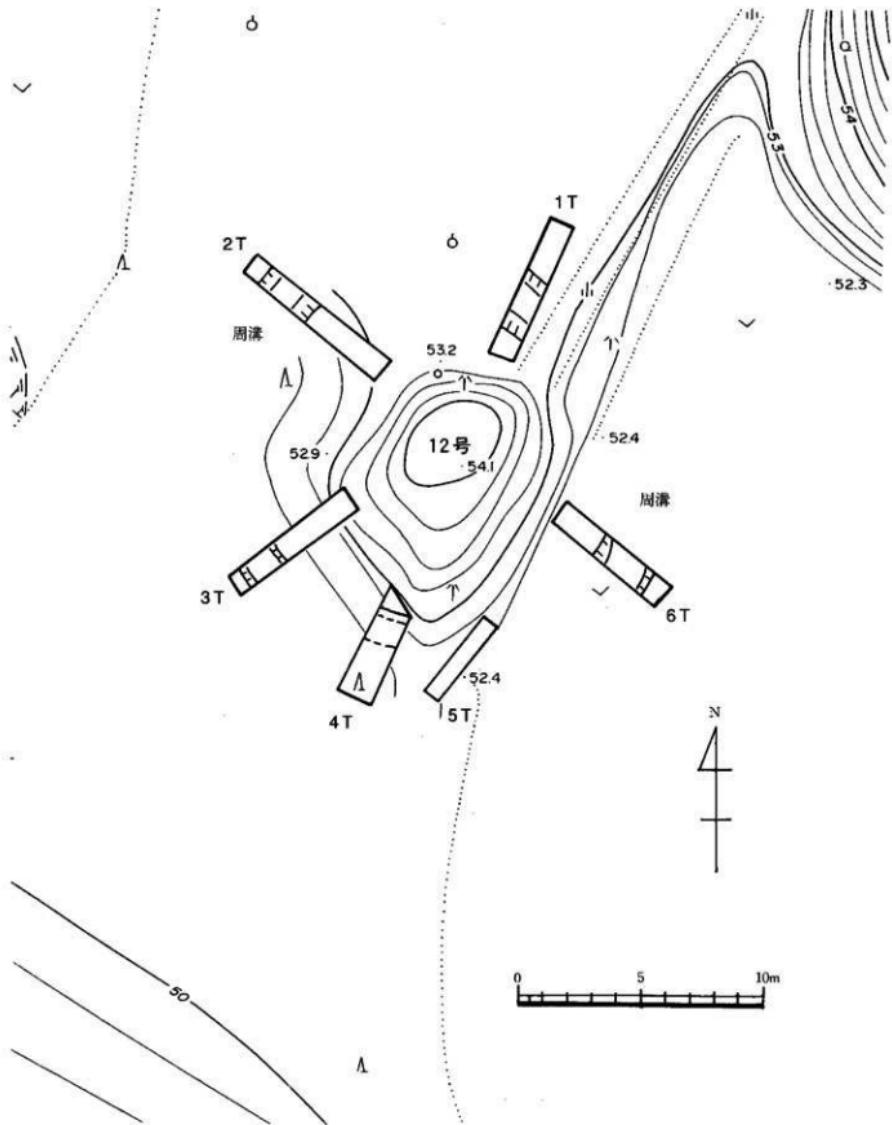
また、第13号墳については、築造当時から古墳周溝はもたなかつたと考えられるが、この古墳は、調査トレンチを設定できる箇所が古墳墳丘裾からやや離れているために周溝のさらに外側を調査した可能性もある。さらに、この付近に人家跡があり、以前に開発を受けて古墳築造当時の地層の状況と異なる可能性もある。



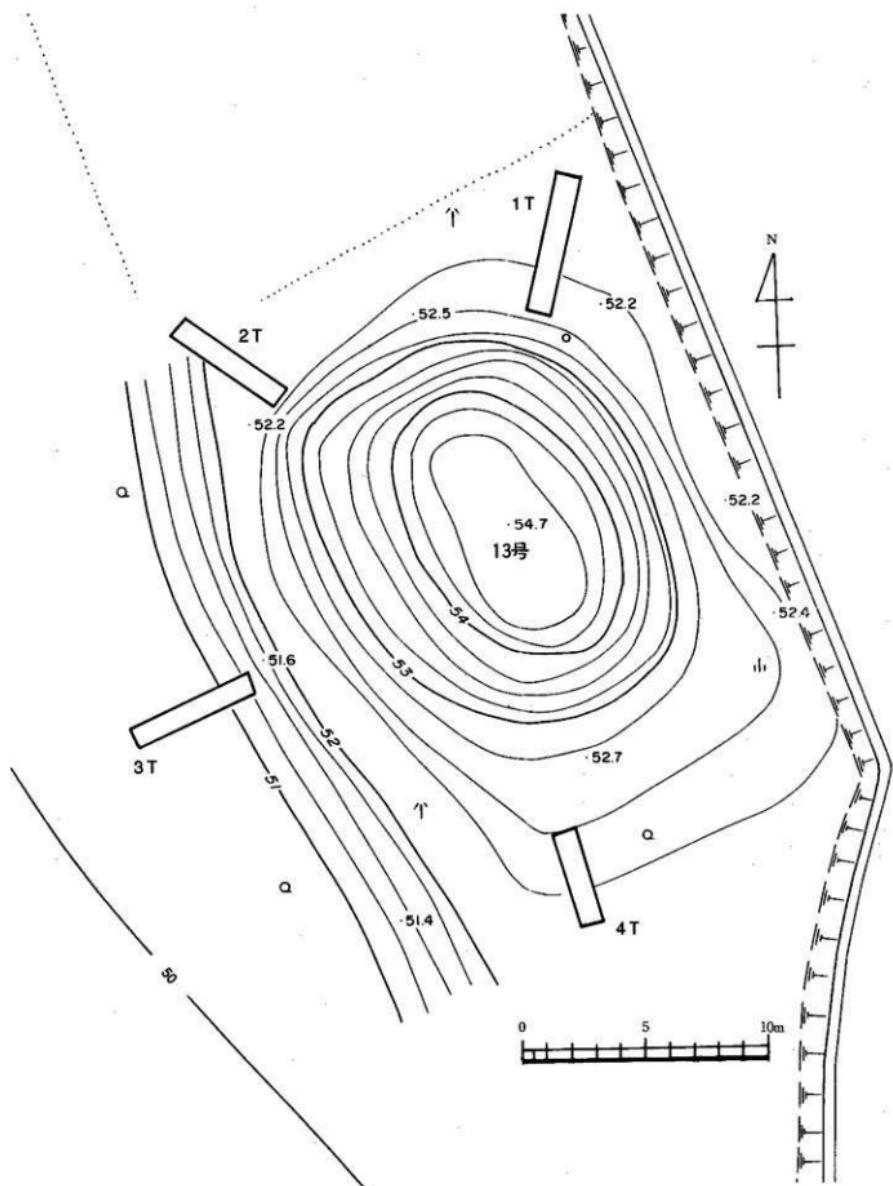
第3図 第2号墳調査トレンチ位置図及び遺構図 (1/200)



第4図 第9号墳調査トレンチ位置図及び遺構図 (1/200)



第5図 第12号墳調査トレンチ位置図及び遺構図 (1/200)



第6図 第13号墳調査トレンチ位置図 (1/200)

図版 1



持田第2号墳  
調査トレンチの  
状況  
(左が  
1号トレンチ)



持田第2号墳  
1号トレンチ  
奥が墳丘  
(北西から)



持田第2号墳  
3号トレンチ  
奥が墳丘  
(南から)

図版 2



持田第 2 号墳  
4 号トレンチ  
奥が墳丘  
(南から)



持田第 2 号墳  
5 号トレンチ  
墳丘から  
(北西から)



持田第 9 号墳  
調査トレンチの  
状況  
(右下が  
1号トレンチ)

図版 3



持田第9号墳  
1号トレンチ  
奥が墳丘  
(南東から)



持田第9号墳  
4号トレンチ  
奥が墳丘  
(北西から)



持田第9号墳  
5号トレンチ  
奥が墳丘  
(西から)

図版4



持田第12号墳  
調査トレンチの  
状況  
(右が  
1号トレンチ)



持田第12号墳  
1号トレンチ  
奥が墳丘  
(北東から)



持田第12号墳  
2号トレンチ  
奥が墳丘  
(北から)

図版5



持田第12号墳  
3号トレンチ  
奥が墳丘  
(西から)



持田第12号墳  
6号トレンチ  
奥が墳丘  
(東から)



持田第13号墳  
1号トレンチ  
奥が墳丘  
(北西から)

図版 6



持田第13号墳  
2号トレンチ  
奥が墳丘  
(西から)



持田第13号墳  
3号トレンチ  
奥が墳丘  
(西から)



持田第13号墳  
4号トレンチ  
奥が墳丘  
(南から)

持田遺跡確認調査



# 第1章 はじめに

## 第1節 調査にいたる経緯

官崎県児湯郡高鍋町大字持田の台地面には国指定史跡の持田古墳群があり、同分布範囲は、持田遺跡として周知され、農地などに利用されている。この持田遺跡内において、個人による宅地造成が計画されており、高鍋町教育委員会に遺跡内の工事について問い合わせがあった。

そのため、高鍋町教育委員会では、工事の計画がある箇所に対して、埋蔵文化財所在について確認調査を実施することになった。調査は、平成17年1月13日から3月24日まで実施し、トレンチによる調査面積は約56.4m<sup>2</sup>である。

## 第2節 立地と環境

高鍋町は、東に日向灘に面し、市街地がひろがる海拔約10m未満の沖積平野を北と西と南から、海拔約50mから約70mの洪積台地がとり囲む地形をしている。この沖積平野を九州山地に発した小丸川が北西から南東に貢流し日向灘にそそぐ。

持田遺跡の範囲は、持田古墳群の主群の分布範囲と同域で、小丸川の北岸にあたる標高約50mの洪積台地上に位置している。

今回の調査対象地は、持田古墳群で最大の墳長約120mで柄鏡形の前方後円墳である計塚<sup>はけづか</sup>の東に接する畠地である。

当地の南南東約180mには、鬼ヶ久保B遺跡がある。この遺跡は、既に削平された円墳の主体部で、南西に開口した河原石積みの石室で、長さ約4.3m、奥壁幅で0.8m、現存の石積みの高さ約0.6mであった。副葬品は、銅環、杯、鉄鎌、勾玉、菅玉が出土している。

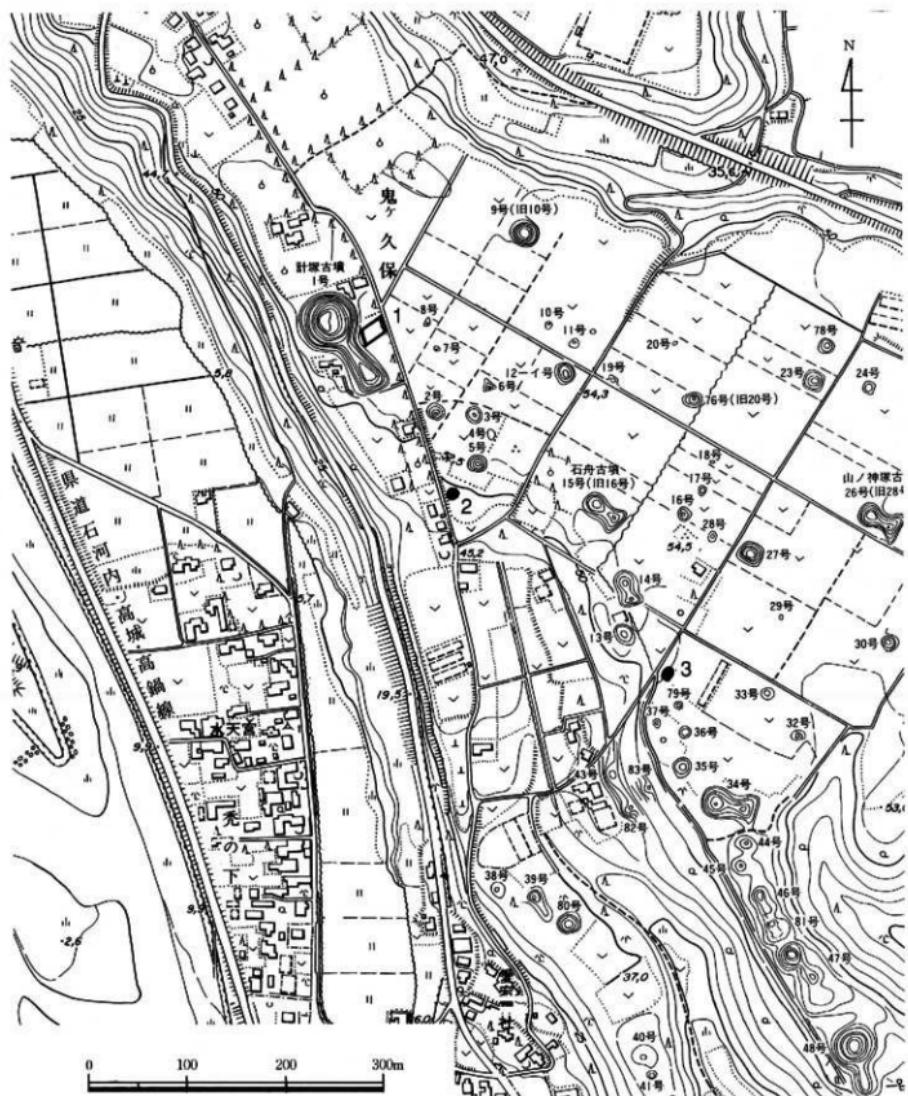
また、南西に約450mの場所では弥生時代後期の住居跡2軒が確認されている。

### 【参考文献】

「高鍋町遺跡詳細分布調査報告書」 1989 高鍋町教育委員会

「宮崎県史 資料編 考古2」 1993 宮崎県

「宮崎県史叢書 宮崎県前方後円墳集成」 1997 宮崎県



1 調査地 2 鬼ヶ久保B遺跡 3 弥生時代後期の住居跡

第1図 調査地位置図及び付近遺跡図 (1/5,000)

## 第2章 調査の概要

### 第1節 調査の概要

今回の調査地は、持田遺跡内であり、持田古墳群第1号墳「計塚」の東側隣接地である。現在は畑として利用されている。

調査対象地は、横約30m、縦約20mで宅地造成計画区域とした。この範囲に長さ約5m、幅約1mを基準に確認調査のトレンチを4列に12本設定し、遺構・遺物の状況について調査した。

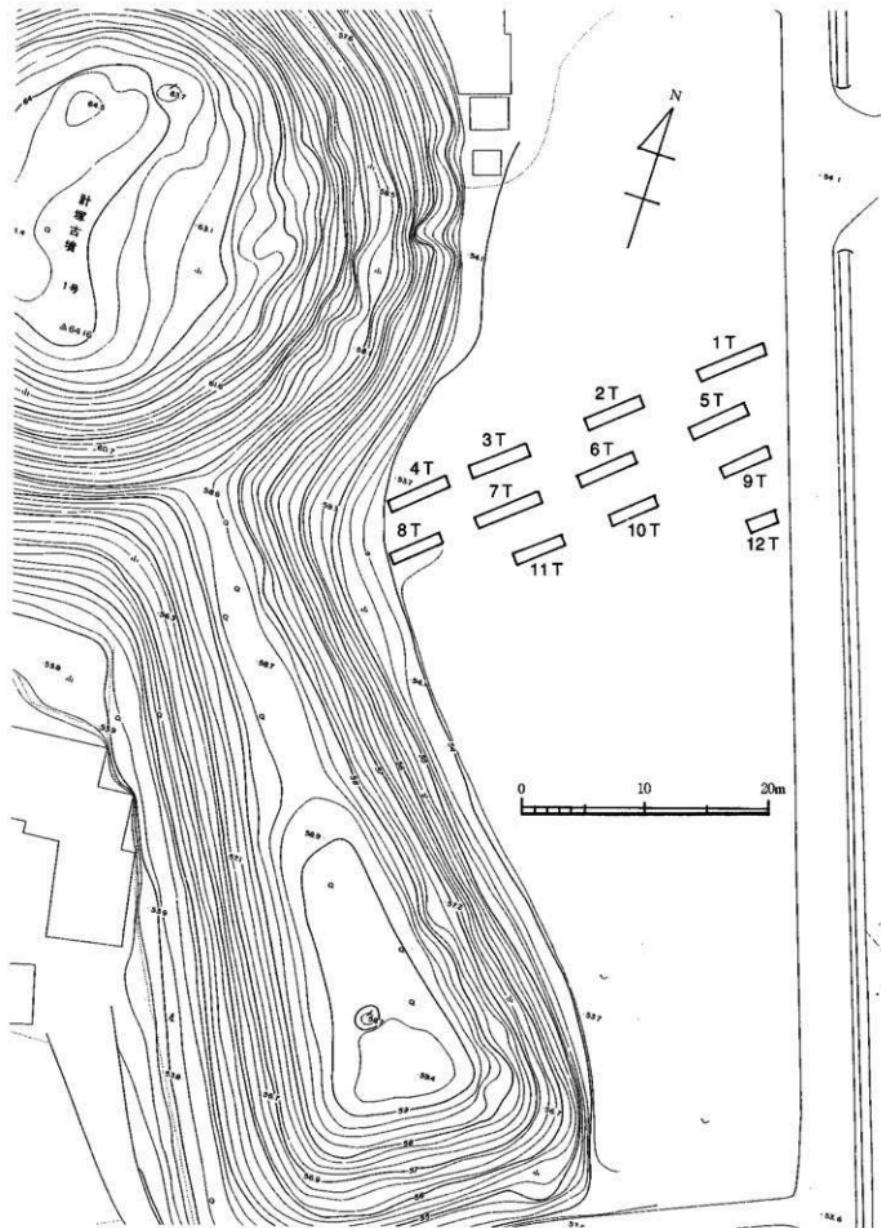
12本のトレンチのうち、第1号墳「計塚」に接する第4トレンチと第8トレンチにおいて、古墳の葺石またはその流れこみとみられる直徑約10cm大の礫や土師器片が出土した。

その他のトレンチは、畑地内であり、耕作土約40cmの下は、明赤褐色で小礫の混じる地山面となり、遺物の出土はなかった。かつて、当地が果樹園であった時の攪乱の跡が各所にみられた。

## 第3章 まとめ

今回の調査は、持田古墳群第1号墳「計塚」に接しているために、この古墳の周溝の所在確認の意味もあった。しかし、畑耕作の影響が深部に及んでいたために、明確な古墳周溝の確認には至らなかった。古墳に近いトレンチは畑の外になり、畑の中に設定したトレンチとは異なる状況であった。

地権者による宅地造成計画については、今回の調査による資料をもとに、埋蔵文化財の保護と保存について、事業者や関係者を交えて協議をおこないたい。



第2図 調査地内トレンチ位置図 (1/400)



持田遺跡  
確認調査  
調査トレンチの  
状況  
(左奥が 1 号  
トレンチ)  
(西から)



持田遺跡  
確認調査  
調査トレンチの  
状況  
(右手前が 1 号  
トレンチ)  
(北東から)



持田遺跡  
確認調査  
4 号トレンチ  
(東から)

図版 2



持田遺跡  
確認調査  
7号トレンチ  
(西から)



持田遺跡  
確認調査  
8号トレンチ  
(東から)



持田遺跡  
確認調査  
10号トレンチ  
(西から)

# 調査抄録

ふりがな	チヨウナイイセキハックツチヨウサホウコクシヨ							
書名	町内遺跡発掘調査報告書							
副書名	持田古墳群古墳範囲確認調査3 持田遺跡確認調査							
卷次								
シリーズ名	高鍋町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第11集							
編著者名	山本 格							
発行機関	高鍋町教育委員会							
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江1138番地							
発行年月日	2005年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'."	東經 °'."	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市 町村	遺跡 番号					
持ちた こふんぐん 持田古墳群 第2号墳 第9号墳 第12号墳 第13号墳	みやざきけいじゆ くじ じん 宮崎県児湯郡 たかぬまち 高鍋町大字持田 あじだに が ほら 字鬼ヶ久保 あじにに が ほら 字西ヶ原	45401	1001	32° 9' 0"	131° 31' 2"	20041208 l 20050324	124.2	古墳 範囲確認
持田遺跡	たかぬまちおおじだ 高鍋町大字持田 あじだにづか 字計塚	45401	1010	32° 9' 7"	131° 30' 54"	20050113 l 20050324	56.4	個人宅地 造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
持ちた こふんぐん 持田古墳群 第2号墳 第9号墳 第12号墳 第13号墳	古墳	古墳	古墳周溝	須恵器 土師器	古墳の周溝が良好に遺存していることを確認。周溝をもたない古墳も確認。			
持田遺跡	古墳	古墳		土師器	1号墳（前方後円墳）の周溝範囲内の可能性がある。			

高鍋町埋蔵文化財調査報告書 第11集  
**町内遺跡発掘調査報告書**

持田古墳群古墳範囲確認調査 3  
持田遺跡確認調査

2005年3月

編集・発行 宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会  
印 刷 (株)印刷センタークロダ  
宮崎市大橋2丁目175番地  
〒880-0022 電話24-4351番

